



みな
レポ



ダブル Wグランプリ受賞！

11月26日(火)、戸倉SeaBoysとFISHERMAN'S KITCHENの皆さんが各々の受賞報告のため、来庁されました。

戸倉SeaBoysの皆さんは、11月4日(月)、東京で開催された「Fish-1 グランプリ」に参加し、国産水産物料理コンテストにおいて、見事グランプリを受賞しました。

「Fish-1 グランプリ」は、「今まで食べたことがなかった水産物に出会い、おいしさを知ってほしい。そして、知られざる水産物を使った料理や

商品が新しい名物になって、地域の観光や産業の活性化につながってほしい。」といった願いが込められ、平成25年度からスタートし、今回で記念すべき開催10回目を数えます。

今回グランプリを受賞した「旨みたっぷりみやぎサーモンと牡蠣のバターブラフ」は、町内で水揚げされた宮城サーモンと牡蠣を使用した一品となっています。

調理を行った佐藤将人さんは「牡蠣と銀鮭を組み合わせると美味しくするところがポイントだった。味としても認められたが、自分で生産したものを自分で調理し食べてもらうといった点も評価されたと思う」と話しました。

FISHERMAN'S KITCHENのお二人は、11月21日(木)、仙台市内で開催された「新東北みやげコンテスト」展示会に参加し、最優秀賞を受賞しました。

「新東北みやげコンテスト」は、「バイヤーや消費者の皆さまに向けた商品PRと販路開拓を支援するためのコンテスト」です。

今回最優秀賞を受賞した「まるごと牡蠣ソースセット」は、「戸倉っこかき」を長時間煮込んで濃縮させたソースとなっており、コロナ渦の様な飲食店に気軽に行けない状態でも飲食店の名物を食べられるようにという思いで考案された一品となっています。

調理を行った佐藤将人さんは「小さい頃から食べてきた南三陸町自慢の牡蠣を多くの人に食べてほしいという思いがあった。引き続き自慢の食材をより多くの人に食べてもらえるよう頑張りたい」と話し、共に開発を行った阿部和也さんは「ASC認証の土台があってこそ今回の開発につながった。漁師の皆さんに敬意を表したい」と話しました。



「khb大賞」受賞！

11月23日(土)第23回みやぎふるさとCM大賞の発表審査会が開催され、南三陸町作品「推しができたら…」が、「khb大賞」を受賞しました。

みやぎふるさとCM大賞は、宮城県内の各市町村がそれぞれのふるさとの魅力を30秒CMで表現し、県民に広くふるさとの素晴らしさを伝えようと放送しているイベントです。

今回受賞した作品は、「推し漁師ができれば、日常がちょっと豊かになる」をテーマに、県内外で活躍されている漁師グループの「SeaBoys」をはじめとした皆さまに出演いただき、人の温かさやを紹介するCMとなっています。

今後、宮城県内では120回、その他東北各県では20回のテレビ放送を予定しておりますので、ぜひご覧ください。



南三陸町議会議長

星

喜美男

持続可能な町づくりを 目指して

新年あけましておめでとうございます。
町民の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。
日頃より町議会の活動に対して、深いご理解と格別なご協力をいただき厚く御礼申し上げます。
昨年は、議会活性化特別委員会として南三陸町観光協会様をはじめ、町内観光事業団体の代表の方々と、町の観光業を取巻く現状や課題について意見を交わしました。常任委員会では、近年顕著化しつつあります気候変動による猛暑や海況変化が与える1次産業への影響と地域産業の現状・課題を調査したほか、教育行政においては、町の未来を担う子供

達に健やかに成長する環境を確保するため、いじめや不登校、要保護児童における現状と取り組みなどの調査を実施いたしました。
これらの調査により、顕在化した課題等については、各常任委員会において調査・協議を重ね、町の施策に対して提言するとともに、議員各自が一般質問や議案審議等で質疑を行うなど、課題解決に努めてまいりました。
議会改革の取り組みとしては、議会がその使命を果たすために必要な全体的なスキルアップを図るべく、各種研修会への参加による議員個々の資質向上やタブレット端末による議会活動の効率化・能率化を図るための導入に向けた取り組みを進めて

きたところであります。
当町議会といたしましては、議会や町政に対する町民皆様のご意見を真摯に受け止めながら、その具現化や改善に努めますとともに、町民のための議会として、町の発展と安心・安全、そして、心豊かに暮らせる持続可能な町の実現に向け、町並びに町民皆様と力を合わせてまいります。
本年も町議会に対しまして、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が町民の皆様にとって希望に満ちた笑顔あふれる1年となりますことを心よりご祈念申し上げます、新年のあいさつといたします。



南三陸町長

佐藤

仁

協働のまちづくりに 向けて

新しい年の始まりにあたり、一言ご挨拶申し上げます。
町民皆様におかれましては、穏やかに新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。
昨年を振り返りますと、元日に発生した令和6年能登半島地震において、石川県能登地方では甚大な被害を受けたほか、7月の台風第10号をはじめとした豪雨災害や土砂災害が全国各地で多発するなど、自然災害の多い一年でありました。
そのような中、本町では「ひと森里海いのちめぐるまち 南三陸」をまちの将来像に掲げた第3次総合計画の施行初年度を迎え、復興後の新たなステージにおいて、人の繋がりが自然の恵みを大切に作るまちづくりが改めてスタートし、本町の豊かな資源や地域産業の魅力発信、さ

らには、国内外からの教育旅行や交流事業などを積極的に受け入れ、交流人口や関係人口の拡大を図ってきたいところであります。
一方で、長引く原油価格及び物価の高騰などを背景に、日常生活や地域の産業・経済にも大きな影響を与えました。本町では、このような状況を克服するため、町民皆様の経済的負担の軽減や事業の継続や雇用の維持に向けた各種支援を実施してきたところであり、今後におきましても、地域のニーズなどを的確に把握しながら、きめ細やかな支援を積極的に展開してまいります。
本年は、南三陸町の誕生から20周年となる節目の年であり、合併前の旧志津川町の町制施行から数え130年(昭和30年)の旧志津川町・旧戸倉村・旧入谷村の町村合併からは70

年となる年でもあります。この間、長い道のりでありました東日本大震災からの創造的復興を成し遂げることができ、また、三陸沿岸道路の開通や本町の自然環境を活かした国際認証の取得など、ハード面・ソフト面において様々な事業に取り組んできたところであります。今後におきましても、町民皆様が安全・安心に暮らせるよう、そして笑顔と魅力があふれるまちを目指し、時代の要請や社会動向の変化にもしっかりと対応しながら、総合計画に掲げる各種施策の着実な推進を図るとともに、協働による持続可能なまちづくりを進めてまいります。
結びに、本年が町民皆様にとりまして輝かしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます、新年の挨拶といたします。